

中学校保健体育論

— 指導者たる教師に問われる資質や条件からの検討 —

An Argument for Health & Physical Education of Junior High School

— Investigation from view point of Abilities and Conditions required for Instructor named Teacher —

植屋清見* 比留間浩介† 渡辺保志‡

UEYA Kiyomi HIRUMA Kosuke WATANABE Yasushi

要約:

我が国の中学生の体力・運動能力・モラルの低下が指摘されてから久しい。その傾向は未だ、終わることなく、逆に益々その低下傾向に拍車を掛ける実態すらある。これらの実態に関しては複合的な原因が存在し、その対策に必ずしも優れた特効薬は見いだせないが、少なくとも、中学生を身体活動の場に引っ張り出し、心身ともに健全な中学生の育成を目指す家庭教育・地域教育・学校教育があれば、間違いなくその傾向は歯止めできると考えられる。学校教育においては、他のどの教科よりも彼らの問題行動を阻止できる教科が保健体育であると考えられる(渡辺, 1997)。中学校保健体育の目標(文部省, 1998)の骨子は「心と体を一体として捉え」「身体運動に親しみ」「健康の保持増進や体力の向上を図り」「明るく豊かな生活を営む態度の育成」である。まさに、我が国の中学生の抱える悩みや問題点解消の教科であると言っても過言ではない。しかし、現実的には中学校において教科としての保健体育の評価や価値観は低く、上述の問題解決の手段にはなり得ていない。それ故、授業の任を担う保健体育の教師が上述の中学校体育の目標達成に資する指導力や問われるべき資質や条件(八尾, 2001, 河西, 2002, 柴田, 2003)を兼ね備えていれば、必ずやこのような問題は解決されるはずである。従って、教師の保健体育の認識、指導力、資質や条件を検討し、それらの向上を期することは中学校の保健体育を論ずる状況で極めて重要なことと考えられる。

キーワード: 中学校保健体育 保健体育教師 中学生 体育の授業 選択制授業 教師の資質や条件

I 緒言

中学校とは小学校の教育を基礎として中等普通教育を施す学校で、小学校の6年とともに義務教育である(広辞苑)。現在の中学校教育は基本的には、日本国憲法、教育基本法、学校教育法の流れの中で、文部科学省の学習指導要領の指導のもとに行われている。

完全学校週5日制が導入されている今日の学校教育の行われ方は「ゆとり」の中で、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とし、一人一人の個性を生かすための教育の推進、人間性とたくましい体をはぐくむための教育にその重点が置かれている。

しかしながら、現実の中学校教育の対象となる中学生の立ち居振る舞いにこのような教育の目標や効果に反するような事件・事故が依然として後を絶たない。「30万円 で友人に母親殺傷依頼(朝日新

*保健体育講座, †山梨大学大学院, ‡上野原市立上野原中学校

聞, 2006.8.30)」「中学校3年生斧で父親を切りつける(朝日新聞, 2007.9.23)」、「高校1年生殺害した母親の頭部を持ち運ぶ(読売新聞, 2007.5.11)」、「自殺の背景にいじめか?(朝日新聞, 2007.9.18)」「夏の宿題苦に中1男子自殺(産経新聞, 2007.9.1)」等など枚挙に暇がない。このような中学生の育成に中学校の保健体育は、またその指導の任に当たる保健体育の教師の責任は全くないのであろうか。

文部科学省学習指導要領における中学校の保健体育の目標は「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」と唱われている。額面通り、中学校体育の目標が100%の教育効果を個々の生徒にもたらす授業として行われたならば、上述のような中学生にまつわる忌まわしい事件・事故は起こりえないし、激減するはずである。

ところで、中学校教師の職務は教科指導、道徳、総合的な学習時間の指導の他、特別活動(学級活動、生徒会活動、学校行事<儀式的行事、学芸的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事>)など多岐にわたり、その日々の指導の実態は極めて多忙であり、個々の生徒への直接的な指導は基本的には決して容易なことではない。

保健体育の授業の行われ方やその効果に関しても、基本的には授業の担当者である保健体育の教師の保健体育教科の認識であり、指導力であり、教育者としての資質や条件に立脚する部分は極めて大きい。しかし、このような中学生の実態に関わる中学校の保健体育を授業という観点から概観すると1)生徒の体育の授業への態度の二極化現象、2)体力、運動能力の二極化現象、2)授業の男女共習、3)選択制授業、4)生徒に生きる力を身につけさせる授業、5)保健体育の授業に対する価値観や重要性の低さなどが指摘される。

このような今日的な中学生の保健体育の授業の捉え方や教科としての重要度、保健体育教師の体育の授業の捉え方や指導力、或いは教育効果を生み出すための教師に問われる資質や条件などを検討することは極めて重要なことと思われる。

II 研究目的

本研究の目的は教師、生徒が中学校における保健体育という教科をどのように捉え、中学校の保健体育の教師に必要とされる資質や条件をどのように考えているかの実態を明白にし、中学校教育における保健体育の教師の望ましい姿を検討することである。

III 研究方法

1 対象者

山梨県N郡T地区の小学校・中学校・高等学校の教師及び児童・生徒とその保護者を対象とした。

2 調査方法

山梨県T地区の教育事務所を通して地域の小中高の校長に研究の意図を理解してもらい、教育事務所から直接各学校にアンケート調査用紙を配布してもらい、後日筆者らが直接回収する方法によった。

3 調査期間

平成18年7月～9月

4 アンケート調査及びその内容

1) 教師に対して

- (1) 体育の授業に対する態度得点及び体育の効果に対する態度得点
小林(1978)による「体育に対する態度(喜び尺度, 評価尺度, 価値尺度)測定調査」及び体育の授業の効果(意志性, 情緒性, 社会性, 身体性, 阻害性)に関する捉え方: 石井(1980)による「スポーツに対する意識と行動調査」を植屋(1998)によって改変されたアンケート調査
- (2) 中学校保健体育教師の各領域, 種目に関する指導力の実態
- (3) 教師に要求される資質や条件
- (4) 中学校保健体育における選択制授業の捉え方

2) 児童・生徒に対して

- (1) 体育の授業に関する態度(喜び尺度, 評価尺度, 価値尺度)
- (2) 体育の授業の効果(意志性, 情緒性, 社会性, 身体性, 阻害性)に関する捉え方
- (3) 小学校・中学校における教科の重要度
- (4) 小学校・中学校体育の各領域・種目の好き嫌い

3) 保護者に対して

- (1) 教師に問われる資質や条件

5 アンケート調査の処理

回収されたアンケート結果は統計ソフトSPSS及びエクセルによって行った。尚, 教師に問われる資質や条件に関しては因子分析法によって処理された。

IV 結果

1 調査対象者ごとの回収率

山梨県T地区内の小・中・高等学校の教師、児童生徒、その保護者がアンケート調査の対象者であったが、それぞれの対象者は教師 292 名、児童生徒 791 名（小学生：308 名、中学生：388 名、高校生：95 名）、保護者 645 名（小学校：257 名、中学校：336 名、高等学校：52 名）の回答数とその回収率は教師 292 名（小学校教師 69.8%、中学校教師 74.0%、高等学校教師 20.6%）で、児童・生徒は小学生 308 名、中学生 388 名、高校生 95 名で保護者は 645 名（小学生保護者 257 名、中学生保護者 336 名、高校生保護者 52 名）であった。

尚、本論文においては小学生の結果に一項目を除いて全て省略する。

2 体育の授業に対する態度得点<体育の授業はどのように捉えられているか>

1) 中学校保健体育の教師と中学生

図 1 は体育の授業に対する中学校保健体育の教師と中学生との結果である。両者の得点は 1) 「喜び尺度」得点に関しては、教師 40.53 (± 4.48)、中学生 29.38 (± 7.35)、2) 「評価尺度」得点に関しては教師 38.58 (± 5.15)、中学生 32.97 (± 6.36)、3) 「価値尺度」に関しては教師 40.84 (± 5.21)、中学生 32.26 (± 6.54) と、いずれも教師の方が有意 ($p < 0.001$) に高い結果であった。

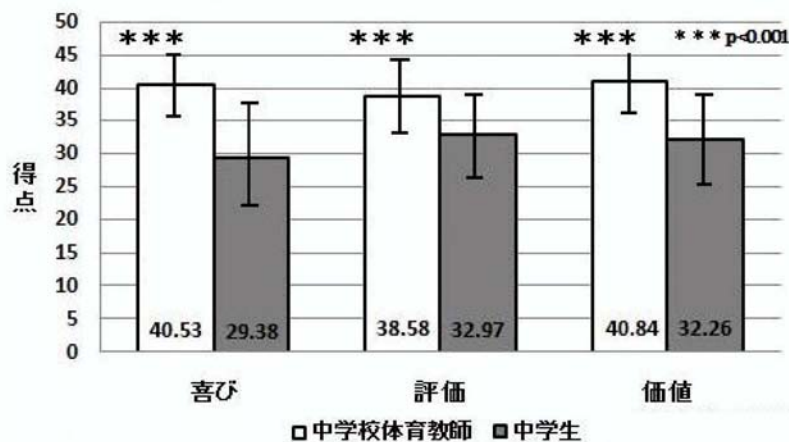


図 1 体育の授業に対する中学校保健体育の教師と中学生との比較

全般的には体育の授業に対する態度得点は小学校高学年が最も高く、中学校、高等学校へと進むにつれて得点は低下傾向を示している。

2) 小学生、中学生、高校生に見る体育の授業への態度得点

図 2 は校種別（小学校、中学校、高校）に見た体育の授業に対する態度得点を「喜び尺度」「評価尺度」「価値尺度」でそれぞれ見たものである。

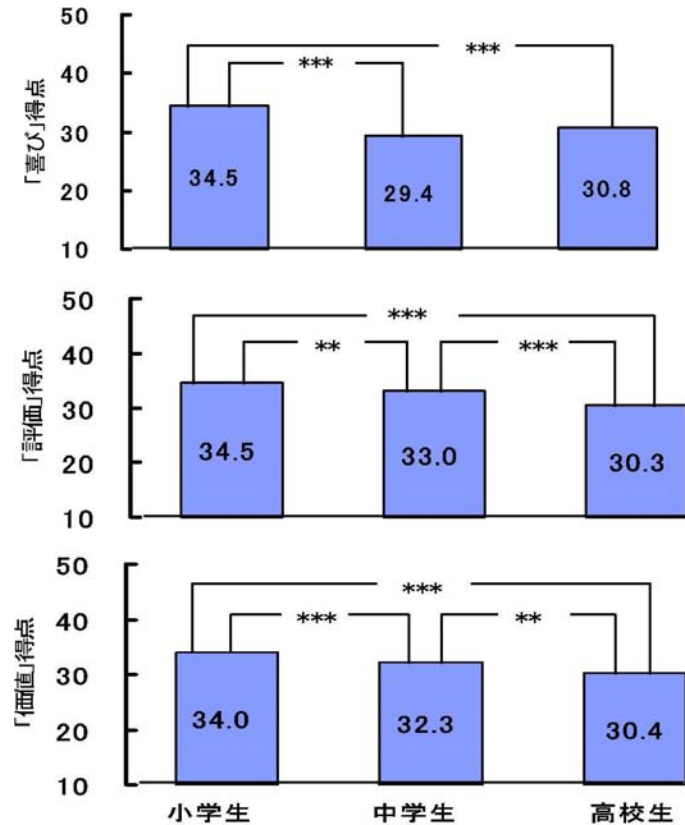


図 2 小・中・高等学校の児童・生徒の校種別の体育の授業に対する態度得点（喜び尺度、評価尺度、価値尺度）の平均値と統計的有意水準

全般的な傾向としては小学生の得点が最も高く、中学校、高校と校種が進むにつれて得点が低下する傾向：「喜び尺度」：「34.5 点→ 29.4 点→ 30.8 点」，「評価尺度」：「34.5 点→ 33.0 点→ 30.3 点」，「価値尺度」：「34.0 点→ 32.3 点→ 30.4 点」であった。

3 中学校体育の授業の効果＜体育の効果はどのように捉えられているか＞

1) 中学校保健体育教師と中学生

図 3 は体育の授業の効果に関する中学校保健体育教師と中学生の結果の比較である。

「意志性」への効果に関しては、中学校保健体育教師 26.26 (± 4.08) 点で、中学生は 22.44 (± 5.22) 点と教師の方が有意に高い ($p < 0.01$) 結果が示された。「情緒性」への効果に関しては、中学校保健体育教師は 23.47 (± 3.82) 点で、中学生は 20.80 (± 4.88) 点と教師の方が有意に高い ($p < 0.01$) 結果が示された。「社会性」への効果に関しては、中学校保健体育教師は 25.58 (± 4.10) 点で、中学生は 21.70 (± 5.32) 点と教師の方が有意に高い ($p < 0.01$) 結果が示された。「身体性」への効果に関して、中学校保健体育教師は 24.89 (± 4.59) 点で、中学生は 21.70 (± 5.32) 点と有意な違い ($p < 0.01$) が示された。

「阻害性」に関しては、中学校保健体育教師は 10.32 (± 3.26) 点で、中学生は 18.03 (± 4.82) 点と教師の方が阻害性は有意に低い ($p < 0.01$) 結果が示された。

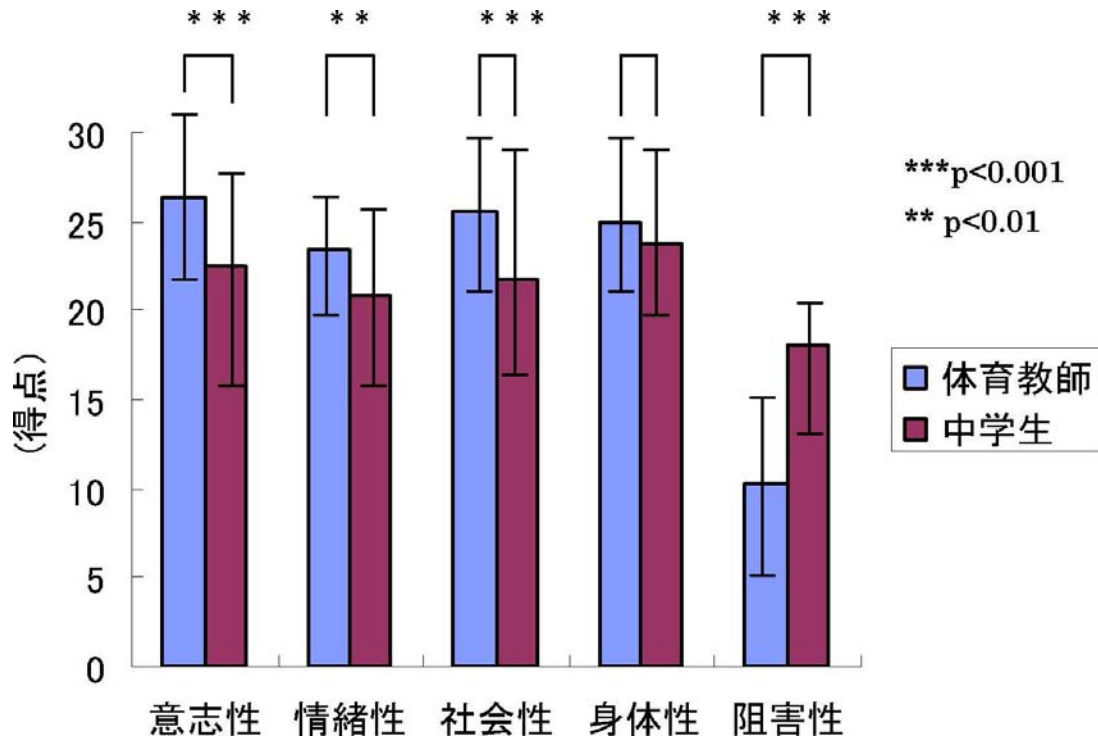


図3 体育の授業の効果に関する中学校保健体育教師と中学生の結果の比較

4 中学生の中学校体育の領域・種目に関する好き嫌い

図4は中学生自身の中学校体育の対象となる領域・種目に対する好き嫌いを5段階評定法で問うた結果である。いずれの領域・種目においても「4.0点」を上回る種目はなく中には「2.0点」を下回る種目さえ存在していた。平均的な「3.0点」を下回る領域・種目は武道（種目全部）、ダンス（種目全部）、器械運動（鉄棒運動、マット運動）、陸上競技（長距離走）等であった。男女別では全般的には男子の得点が女子の得点を上回っているが、ダンス領域（創作ダンス、フォークダンス）とバドミントンは女子の得点が男子を上回っていた。

5 中学生が考える中学校各教科の重要度

図5は中学生が考える各教科の重要度（5段階評定）の得点結果とその標準偏差を示したものである。得点の高い方から「国語」「外国語（英語）」「数学」で「体育」は「社会」とともに第5位であった。最も低い教科は美術で、次いで音楽であった。

6 中学校保健体育における選択制授業

1) 中学校保健体育教師の選択制授業の評価

図6は中学校保健体育における選択制授業の捉え方に関する保健体育教師自身の5段階評定法の結果である。「4.0点」以上の回答は見られず、「生徒の興味関心を引き出せる」(3.67 ± 0.81点)、「自主的な学習意欲が高まる」(3.60 ± 0.92点)、「体育教師主導の授業より体育的效果が上がる」(3.27 ±

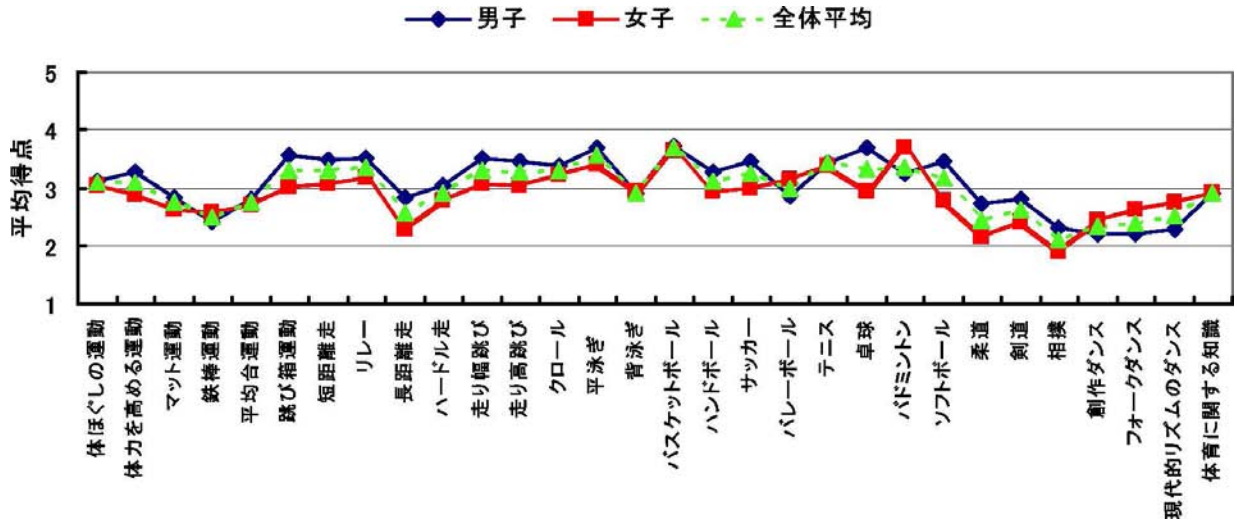


図 4 中学生自身の中学校体育の対象となる領域・種目に対する好き嫌い

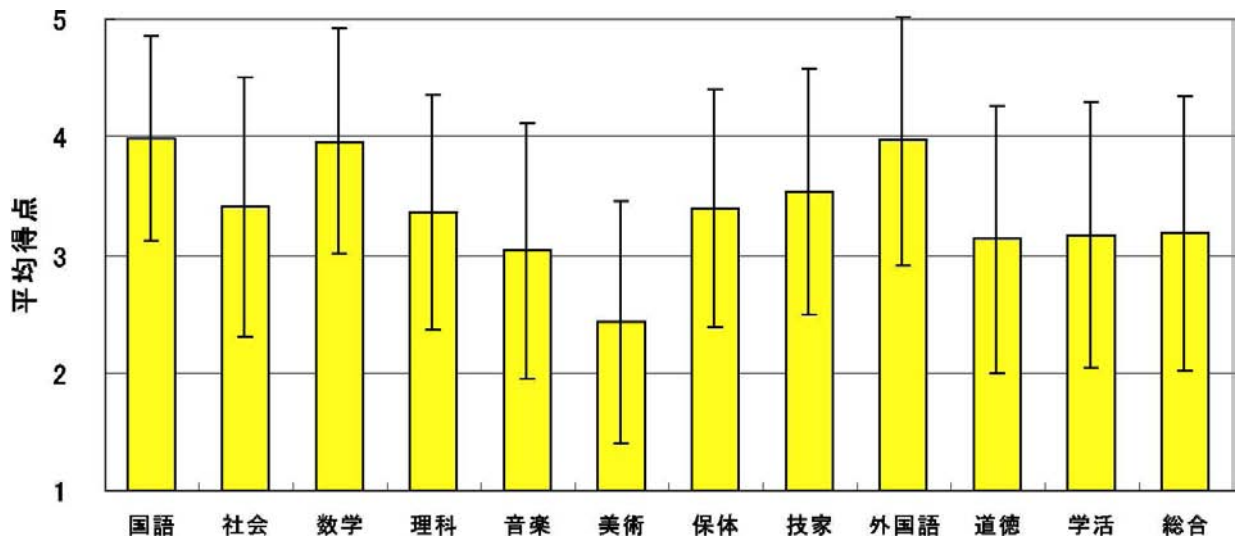


図 5 中学生が考える各教科及び道徳，学活，総合的な学習の重要度

1.01 点), 「生涯学習・スポーツにつながる」(3.27 ± 0.95 点), 「生徒の自主的活動だから教師はいらない」(1.40 ± 1.46) などの結果であった。

2) 中学校保健体育における選択制授業の問題点

図 7 は中学校保健体育における選択制授業の問題点を示したものである。回答の多い方から 1) 「人数の偏り」(3.60 ± 0.99 点), 2) 「選択領域・運動の偏り」(3.38 ± 1.02 点), 3) 「授業計画・準備に時間がかかりすぎる」(3.27 ± 1.23 点) 「生徒自身の過大, 過小評価」(3.13 ± 1.32 点) などが上げられた。



図 6 5段階評定による中学校保健体育教師の選択制授業の捉え方

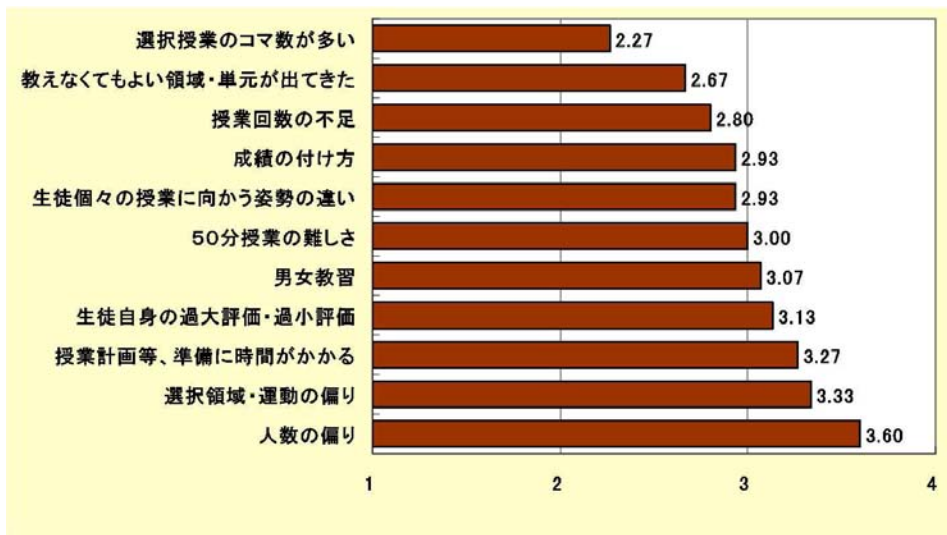


図 7 中学校保健体育における選択制授業の問題点

7 中学校保健体育の教師に求められる資質や条件

1) 保健体育教師の指導すべき全領域の各種目に対する指導力

図 8 は中学校保健体育教師の指導すべき全領域の各種目に対する自己の指導力の 5 段階評定の結果である。本研究では指導力を「知識」「経験」「実技能力」「師範能力」としてみたものである。全般的には「4.0 点」を上回る種目が多いが、体操領域（鉄棒運動、平均台運動）や武道（相撲、柔道、剣道）は平均的な「3.0 点」を下回る指導力の実態であった。

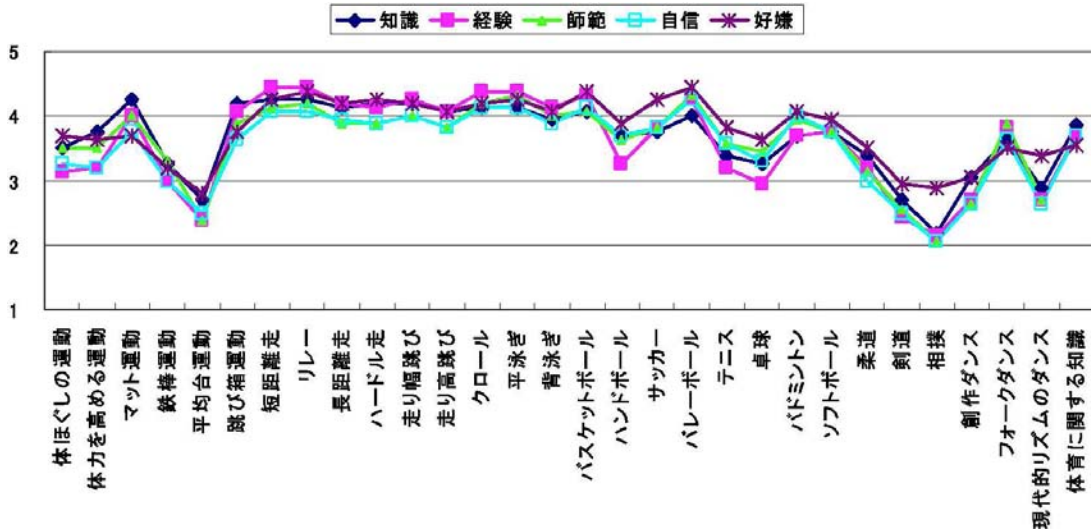


図 8 指導すべき全領域の各種目に対する自己の指導力の 5 段階評価得点

2) 教師から見た教師に問われる理想的な資質や条件と自己の実態

図 9 は教師から見た教師に問われる資質や条件と自己の実態を職別（「管理職」「他教科教師」「保健体育教師」）に理想得点の高い資質や条件の上位 1 位～20 位までの理想得点と実態の得点を示したものである。

保健体育教師に限定して、得点の高い資質の理想得点と自己の実態の得点は、1)「活力がある」(4.78 点:3.90 点)、2)「児童・生徒が好きである」(4.87 点: 4.23 点)、3)「人を分け隔てしない」(4.83 点:3.90 点)、4)「愛情がある」(4.83 点:4.07 点)、5)「他人をほめられる」(4.83 点:3.93 点)、6)「元気がある」(4.80 点:3.97 点)、7)「愛情がある」(4.80 点:4.00 点)、8)「指導力がある」(4.77 点:4.47 点)、9)「常識がある」(4.77 点:3.53 点)、10)「人間性が豊かである」(4.77 点:3.73 点)、11)「明るい」(4.77 点:3.57 点)、12)「子どもの目線を持っている」(4.73 点:3.90 点)、13)「向上心を持っている」(4.73 点:3.87 点) 14)「信頼感がある」(4.73 点:3.97 点)、15)「人間が好きである」(4.73 点:3.57 点)、16)「感動できる」(4.73 点:4.13 点)、17)「健康である」(4.73 点:4.20 点)、18)「責任感がある」(4.73 点:4.00)、19)「判断力がある」(4.70 点:3.97 点)、20)「知識がある」(4.70 点:3.57 点)であった。

併せて、実態を示す得点では全般的に理想とする得点を全ての項目で下回るものであったが、とりわけ実態が理想得点を大きく下回る項目は「指導力がある」(1.48 点差)、「人間性が豊かである」(1.40 点差)、「知識がある」(1.32 点差)、「指導力がある」(1.47 点差)、「信頼性がある」(1.30 点差)、「教養がある」(1.26 点差)の順であった。また、体育教師の実態は全般的には管理職群や他教科教師群よりは理想得点も自己の実態得点も高い結果を示した。

3) 因子分析による測定尺度表作成の試みとそれに基づく評価について

植屋(2003)が用いた 50 項目に、更に 50 項目を加えた 100 項目について、調査対象教師には理想と実態を、保護者には必要な資質であると思われるかどうかについて、1:『全く必要ない・全くない』から 5:『とても必要・おおいにある』の 5 段階評価で回答を求め、まとめたものを元に因子分析を行った結果が表 1, 2 である。各因子を構成する尺度の内容から各因子をそれぞれ「社会的資質」「職業的資質」「情緒的資質」「身体的資質」「人間関係の資質」「付加的資質」と命名された。

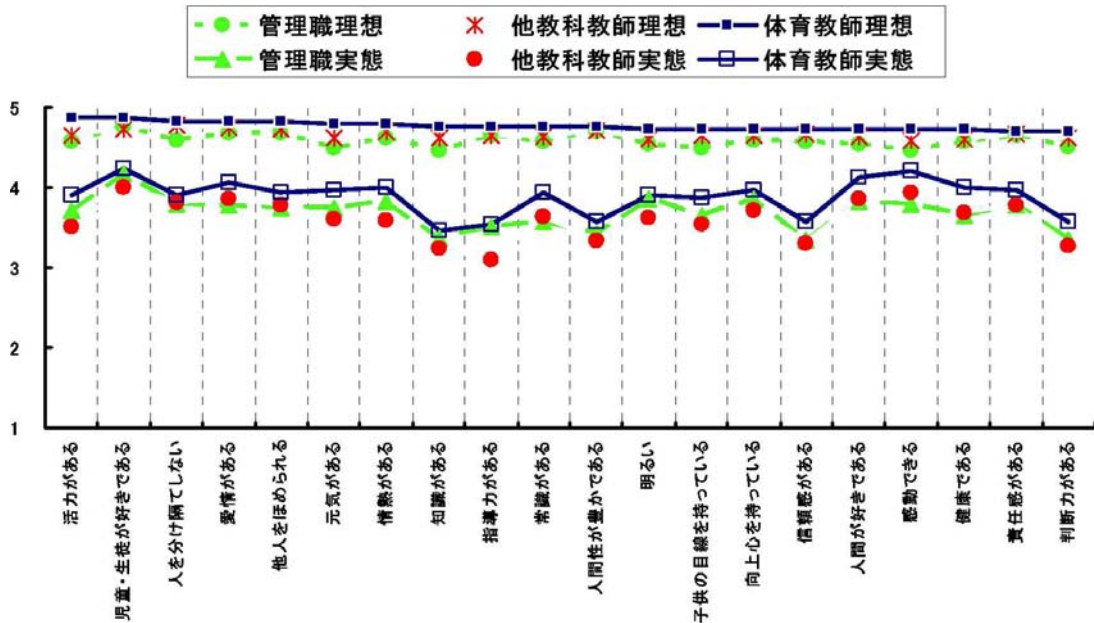


図9 教師が考える「管理職教師」「体育教師」「他教科教師」の理想像, 上位20位と自己の実態

以上, 6因子58項目からなる尺度を本研究における教師に必要な資質・条件尺度とした. そしてこれを基に, 管理職群, 体育教師群, 他教科教師群ごとに各因子の得点を百点換算で表したものが表3である.

全体的には「情緒的資質」が比較的備わっており, 「付加的資質」はそれほど身に付いていないという結果が示された. 「付加的資質」は管理職, 他教科教師と体育教師の間に大きな差異は見られなかったが, それ以外の資質に関しては, 体育教師は管理職群や他教科教師群に比べ, 平均得点が高いという結果が示された. 有意な得点の差が見られたものは, 身体的資質における体育教師群と他教科教師群との間の得点においてのみ(5%水準)であったが, 体育教師は他教科教師に比べ, 全般的に教師に必要な資質や条件が比較的備わっているという結果であった.

表 1 因子分析の結果
回転後の因子行列^{a)}

	因子					
	1	2	3	4	5	6
寛容だ	.725	.201	.281	.122	4.453E-02	4.566E-02
客観的	.717	.214	.189	.176	-1.675E-03	1.756E-02
分析力	.661	.267	.167	.149	.111	9.649E-02
多価値観	.597	.228	.253	.199	4.632E-02	.109
規範意識	.573	.304	8.790E-02	.294	.155	9.332E-02
他人為働	.570	.105	.237	.185	.273	.175
厳接する	.537	.227	.105	9.371E-02	.269	.192
不正憎む	.535	.197	.261	6.089E-02	.131	9.842E-02
道徳心	.531	.217	.261	.136	.181	-.101
協調性	.526	.222	.230	.156	.386	.101
観察力	.526	.220	.304	.139	.363	-4.840E-02
謙虚だ	.522	.203	.170	.190	.176	.154
ボランティア	.514	.223	.185	.283	5.464E-02	.236
公僕性	.507	.165	9.921E-02	.302	.123	9.694E-02
決断力	.505	.323	.209	.125	.404	-4.045E-02
人見目有	.482	.253	.226	9.029E-02	.322	9.375E-02
社交性	.474	.239	.210	.279	.379	.211
専門性高	.473	.359	.141	.328	9.742E-02	6.992E-02
人に気遣	.472	.195	.279	5.430E-02	.305	.127
リーダー性	.458	.301	.166	.288	.394	8.686E-02
演技力	.413	.109	6.002E-02	.403	.179	.275
義理人情	.413	.126	.128	.228	.269	.323
判断力	.271	.605	.341	3.225E-02	.281	-.156
社会性	.279	.599	.364	8.512E-02	6.527E-02	8.527E-02
品性	.305	.588	.265	.179	-2.369E-02	.140
指導力	.177	.577	.340	6.430E-02	.188	2.162E-02
冷静だ	.265	.562	.284	5.299E-02	.294	-9.371E-02
意志強い	.277	.561	.311	8.441E-02	.173	.257
計画性	.347	.555	.220	.143	.228	-9.371E-03
正義感	.262	.543	.397	4.890E-02	.148	.234
勤勉	.357	.538	.285	.202	5.189E-02	.117
行動力	.287	.481	.320	.116	.390	4.947E-02
経験豊富	.184	.471	.275	.164	.148	.162
服装気遣	.286	.450	.188	.348	6.305E-02	.266
健全だ	.311	.441	.393	8.730E-02	.220	1.673E-02
プロ意識	.415	.427	.183	.182	-1.601E-02	5.163E-02
仕事速い	.260	.425	.113	.344	.192	.367
愛情	.199	.226	.708	-8.719E-03	-2.204E-02	3.213E-02
明るい	.170	.121	.670	4.095E-02	.148	8.763E-02
分け隔て	.144	.205	.638	-5.042E-02	7.373E-02	-8.382E-02
元気	.161	.111	.637	2.373E-02	.168	6.723E-02
ほめれる	.235	.226	.626	1.561E-02	7.598E-03	-1.442E-02
子供目線	.126	.265	.604	-7.336E-02	9.669E-02	5.736E-02
情熱	.200	.307	.595	-4.978E-04	.137	.127
子供好き	.102	.310	.519	1.196E-02	.181	6.655E-02
笑顔を持	.351	.111	.467	.109	.276	.165
感動でき	.423	.138	.445	4.840E-02	.304	.124
優しい	.234	.383	.395	.115	.130	.251
酒飲まず	6.853E-02	2.085E-02	-5.806E-02	.731	4.003E-02	3.971E-03
ルックス良い	5.035E-02	2.537E-03	-2.717E-02	.728	.107	.148
英語強い	.261	.107	3.421E-02	.675	8.319E-02	-4.828E-03
管理職望	3.248E-02	5.094E-02	-5.951E-02	.591	.146	.143
字うまい	.291	.189	.108	.566	7.052E-02	.174
タバコ吸ず	.187	9.853E-02	-3.542E-03	.549	-1.995E-02	-.108
何でも可	.170	.163	9.035E-02	.489	.373	.206
頭がよい	.339	.293	6.788E-02	.467	.213	6.793E-02
宗教心	.217	1.586E-02	-4.724E-02	.404	-5.166E-02	.363
体力有り	.285	.153	.245	.222	.567	5.733E-02
健康だ	.233	.235	.278	.137	.530	1.626E-02
気迫有り	.307	.188	.135	.262	.453	.179
涙もろい	.218	.122	.126	.304	8.187E-02	.561
友同僚多	.156	.341	.294	.288	.263	.418

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

表 2-1 教師に問われる資質尺度の因子分析結果

項目番号	項目内容	因子負荷量						共通性 h ²
		I	II	III	IV	V	VI	
I. 「社会的資質」 α = 0.945								
	寛容である	.725	.201	.281	.122	.045	.046	.664
	客観的である	.717	.214	.189	.176	-.017	.018	.628
	分析力がある	.661	.267	.167	.149	.111	.096	.581
	多様な価値観を持っている	.597	.228	.253	.199	.046	.109	.526
	規範意識が高い	.573	.304	.088	.294	.155	.093	.547
	他人のために働ける	.570	.105	.237	.185	.273	.175	.532
	厳しく接することができる	.537	.227	.105	.094	.269	.192	.469
	不正を憎む	.535	.197	.261	.061	.131	.098	.424
	道徳心がある	.531	.217	.261	.136	.181	-.101	.458
	協調性がある	.526	.222	.230	.156	.386	.101	.562
	観察力がある	.526	.220	.304	.139	.363	-.048	.570
	謙虚である	.522	.203	.170	.190	.176	.154	.433
	ボランティア精神がある	.514	.223	.185	.283	.055	.236	.487
	公僕性を持っている	.507	.165	.099	.302	.123	.097	.410
	人を見る目がある	.482	.253	.226	.090	.322	.094	.468
	社交性がある	.474	.239	.210	.279	.379	.211	.592
	専門性が高い	.473	.359	.141	.328	.097	.070	.495
	人に気遣いできる	.472	.195	.279	.054	.305	.127	.450
	リーダー性がある	.458	.301	.166	.288	.394	.087	.573
	義理人情がある	.413	.126	.128	.228	.269	.323	.431
II. 「職業的資質」 α = 0.931								
	判断力がある	.271	.605	.341	.032	.281	-.156	.660
	社会性がある	.279	.599	.364	.085	.065	.085	.588
	品性がある	.305	.588	.265	.179	-.024	.140	.562
	指導力がある	.177	.577	.340	.064	.188	.022	.519
	冷静である	.265	.562	.284	.053	.294	-.094	.565
	意志が強い	.277	.561	.311	.084	.173	.257	.592
	計画性がある	.347	.555	.220	.143	.228	-.009	.549
	正義感が強い	.262	.543	.397	.049	.148	.234	.601
	勤勉である	.357	.538	.285	.202	.052	.117	.555
	行動力がある	.287	.481	.320	.116	.390	.050	.585
	経験が豊富である	.184	.471	.275	.164	.148	.162	.406
	服装に気遣いできる	.286	.450	.188	.348	.063	.266	.515
	健全である	.311	.441	.393	.087	.220	.017	.488
	仕事が早い	.260	.425	.113	.344	.192	.367	.551

表 2-2 教師に問われる資質尺度の因子分析結果

III. 「情緒的資質」 $\alpha = 0.888$

愛情がある	.199	.226	.708	-.009	-.022	.032	.594
明るい	.170	.121	.670	.041	.148	.088	.524
人を分け隔てしない	.144	.205	.638	-.050	.074	-.084	.484
元気である	.161	.111	.637	.024	.168	.067	.478
人をほめることができる	.235	.226	.626	.016	.076	-.014	.499
子供の目線を持っている	.126	.265	.604	-.073	.097	.057	.469
情熱がある	.200	.307	.595	-.000	.137	.127	.523
子供が好きである	.102	.310	.519	.012	.181	.067	.413
笑顔を持っている	.351	.111	.467	.109	.276	.165	.468
優しい	.234	.383	.395	.115	.130	.251	.451

IV. 「付加的資質」 $\alpha = 0.851$

酒を飲まない	.069	.021	-.058	.731	.040	.040	.544
ルックスが良い	.050	.003	-.027	.728	.107	.148	.567
英語（外国語）に強い	.261	.107	.034	.675	.083	-.048	.543
管理職になりたいと思っている	.032	.051	-.060	.591	.146	.143	.398
字がうまい	.291	.189	.108	.566	.071	.174	.488
タバコを吸わない	.187	.099	-.035	.549	-.020	-.108	.359
何でもできる	.170	.163	.090	.489	.373	.206	.484
頭がよい	.339	.293	.068	.467	.213	.068	.474
宗教心がある	.217	.016	-.047	.404	-.052	.363	.348

V. 「身体的資質」 $\alpha = 0.769$

体力がある	.285	.153	.245	.222	.567	.057	.538
健康である	.233	.235	.278	.137	.530	.016	.487
気迫がある	.307	.188	.135	.262	.453	.179	.454

VI. 「人間関係的資質」 $\alpha = 0.643$

涙もろい	.218	.122	.126	.304	.082	.561	.492
友人・同僚が多い	.156	.341	.294	.288	.263	.418	.554
因子寄与率 (%)	14.440	10.234	10.067	7.937	5.380	2.992	
累積寄与率 (%)	14.440	24.657	34.742	42.679	48.059	51.051	

表 3 管理職群, 体育教師群, 他教科教師群ごとの各因子の百点満点の換算得点

	社会的資質	職業的資質	情緒的資質	付加的資質	身体的資質	人間関係的資質	合計
体育教師	69.7 ± 10.7	70.5 ± 11.3	77.1 ± 12.4	52.6 ± 11.7	75.8 ± 15.1	71.8 ± 13.8	413.54
管理職	68.2 ± 8.63	68.7 ± 11.4	74.8 ± 11.2	52.4 ± 11.7	70.2 ± 13.8	68.6 ± 14.8	403.03
他教科教師	66.9 ± 10.3	66.9 ± 11.3	74.1 ± 11.7	55.4 ± 10.4	68 ± 14.3	68.2 ± 13.4	399.10
全教師	67.3 ± 10.4	67.4 ± 11.3	74.5 ± 11.8	55.1 ± 10.6	69 ± 14.6	68.7 ± 13.4	400.86

V 論議

1 体育論及び中学校保健体育論

中学校の保健体育の教師の資質や条件を検討することは、大前提として「中学校」とは、「教師」とは、「保健体育」とはどうあるべきかを考え、これらを統合して総合的に検討することが必要である。まず、体育とは何かに関して、幅広く国際的な認識を得ている定義（W.T.Strreit, 1950）

Physical education is a way of education through physical activities which are selected and carried on with full regard to a value of human growth, development, and behavior. : 体育とは人間の発育、発達、立ち居振る舞いという価値に対して精選され、最大級に配慮を持って実践される身体活動を通しての教育である。

Physical education has as its aim the development of physically, mentally, emotionally and socially fit citizens through the medium of physical activities like throwing a ball, running, swimming and so on. : 体育はボールを投げる、走る、泳ぐ等の身体活動を通して身体的な、精神的な、情緒的な、そして社会性（を持った市民）の発達をその目的に持っている。

とされている。

加えて、我が国の文部科学省の中学校保健体育の目標は「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」と唱われている。更には体育の目標として「1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより、運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく、健全にする態度を育てる。2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付く体の調子をを整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。3) 運動における競争や共同の経験を通して、公正な態度や進んで、規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる」とされ、保健分野に関しては「個人における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく、資質や能力を育てる」とされている。

中学校における保健体育は体育分野と保健分野に分けられ、上述したように保健体育全般、体育分野、保健分野ごとに中学生の心身の健全育成に資する教科としての重要な科目としての使命を帯びて行われている。しかし、これまでも多くの研究者（植屋, 1998）によって指摘されてきたように中学校体育の授業は、生徒にとっては主要教科の授業の谷間の息抜きやストレスの解消であったり、仲間と面白おかしく時間を過ごすだけのもので、生徒自身に重要な教科として捉えられていない実態がある。

中学校期は人生80年の極めて重要な時期であるという観点に立ったときに、現実の我が国における体育軽視の実態はこのまま放置してはいけないことである。中学生の多くのあってはならない非人間的な、忌まわしい事件・事故の背景には心身の健全なる発育・発達を遂げていない生徒の姿が見え隠れしている。

学校における授業（教科指導）は学校の教育全体の中で最も主要なものであり、授業軽視の実態は許されるべきものではない。教育とは「人間がある意図を持って働きかけ望ましい姿に変化させ価値を実現する活動（広辞苑）」である。本研究に関して、この意味を具体化すれば「体育の授業を担当する教師がクラス全体及び一人一人の受講生に、こうあって欲しい、こうであって欲しいという気持ちを持って、指導に当たり、その願いを達成させることができはじめて教育活動が成立したというこ

とになる。もちろん、近視眼的に授業の直後に、意図する効果を期待するのではなく、個々の生徒の長い人生に関わってその効果が現れることが教育と考えられる。中学校期に運動が苦手な生徒が体育の授業のおかげで、運動が好きになり、中高年期に生涯スポーツの一環として地域のママさんバレーのメンバーとしてバレーボールを楽しむ状況があったとすれば、この生徒にとっての中学校での体育の授業の効果は肯定的なものとなる。授業の成立は指導者としての教師と学習者としての生徒が学習指導要領に沿ったカリキュラムを介して成立する。

その意味では指導者たる教師の授業における諸々の状況は極めて重要である。体育の重要性を訴えない教師の授業から体育は重要であると認識する生徒が生まれるであろうか。柔道の知識や実技経験が十分でない教師の授業から「礼儀作法を尊重して練習や試合ができる態度（柔道の目標）」が養われるであろうか。

2 中学校保健体育教師の指導力

中学校の教師の学校における職務は教科指導をはじめ学級経営、諸々の学校行事など多岐にわたるが、基本的には教科指導（授業）が中心となるのは疑いない。従って、保健体育教師には指導すべき全ての領域の指導力が問われる。中学校保健体育の領域はA. 体づくり運動、B. 器械運動、C. 陸上競技、D. 水泳、E. 球技、F. 武道、G. ダンス、H. 体育に関する知識と、これまた多岐にわたる。

本研究においては保健体育教師の指導力をその領域、種目に関する1)「知識」、2)「経験」、3)「実技能」、4)「師範能力」とし、5段階評定で問うたが教師自身の指導力は全ての領域、種目に関して必ずしも高得点ではない。一方、生徒自身の各領域、種目への好き嫌いの実態はどの種目も「4.0点」を上回る種目はなかった。とりわけ、武道：相撲・柔道・剣道の全て、器械運動：鉄棒運動・平均台運動・マット運動、ダンス：創作ダンス・フォークダンス・現代的リズムの運動、陸上競技：長距離走・ハードル走などは平均点となる「3.0点」以下であった。この実態は教師の各領域、種目に対する指導力と合致しており、教師の指導力の実態がそのまま生徒自身の好き嫌いに反映されている状況が窺える。

考え方によっては、バレーボールを専門とする保健体育教師が長距離走や柔道といった種目に必ずしも精通している訳ではないが、保健体育の教師としての責務や自負を考慮すると、当然、指導者としての全般的な教科の指導力は問われるべきであるが、その方向の資質や条件は必ずしも満たされていない。これでは学習指導要領に掲げる体育の目標「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」の授業効果をもたらすには十分とはなり得ない。教師のオールラウンドな実技種目の指導力を高める努力が問われるところである。

3 因子分析による教師の資質・条件に関する測定尺度表作成の試みとそれの基づく評価

調査対象の教師及び保護者から得た教師に問われる資質や条件の結果を基に因子分析を行い、教師に問われる資質や条件を測定する調査用紙の作成を試みた。まず、100項目の合計得点とそれぞれの項目との相関係数を算出し、全体得点との相関の低い相関係数0.3以下の項目を除外してみたが、見あたらなかった。そこで、100項目全てを対象に、主因子法、バリマックス回転で因子分析を行ったところ、固有値が1.0以上のものが14因子抽出された。得られた固有値の推移から因子数4～9で検討した結果、固有値の大きさ、因子の解釈のしやすさから6因子解を採用した。因子負荷量0.40以下の項目を削除後、再び主因子法、バリマックス回転による因子分析を行った。その結果が結果の表1である。

尚、この時の累積寄与率は 51.051%であった。そして、更に複数の項目に因子負荷量 0.40 以上を示した項目を除外して示したものが表 2-1、表 2-2 である。

第 I 因子は「規範意識が高い・道徳心がある・多様な価値観を持っている」など、広く教師に必要な社会的資質を示す項目からなるので「社会的資質」(20 項目, $\alpha = 0.954$, 寄与率 14.40%) と命名した。第 II 因子は「判断力・指導力・計画性・豊富な経験」など教育職に携わる職業人として必要な資質を示す項目からなることから「職業的資質」(14 項目, $\alpha = 0.931$, 寄与率 10.23%) と命名した。第 III 因子は「愛情がある・子どもが好き・明るい・子どもの目線を持っている」など、教師として必要な情緒性を示す項目からなっていることから「情緒的資質」(10 項目, $\alpha = 0.888$, 寄与率 10.07%) と命名した。第 IV 因子は「ルックスがよい、酒を飲まない、字が上手い、タバコを吸わない」など、必ずしもなくても良いがあった方が良いことを示す項目からなることから「付加的資質」(9 項目, $\alpha = 0.851$, 寄与率 7.94%) と命名した。第 V 因子は「体力がある、健康である」など、身体的な資質を示す項目からなることから「身体的資質」(3 項目, $\alpha = 0.643$, 寄与率 5.38%) と命名した。第 VI 因子は「涙もろい・友人や同僚が多い」からなり、人間関係を良好に保つ資質を示すものであることから「人間関係的資質」(2 項目, $\alpha = 0.643$, 寄与率 2.99%) と命名した。

また、各因子の Cronbach の α 係数は 0.643 から 0.954 の間であったので、尺度内の各因子の整合性は認められた。したがって、以上 6 因子 58 項目 (説明率は全分散の 51.1%) からなる尺度を本研究における教師に必要な資質尺度とした。

4 教師に問われる資質や条件と教師の自己研鑽

教師に求められる資質や条件に関しては、生徒が何を求め、生徒に何をもちたらしめるべきかを考えなければならない。中央教育審議会答申 (1996) では「豊かな人間性、専門的な知識、広い教養を基盤とする実践的指導力のある教師」としている。また、「21 世紀新生プラン」(2001) や「人間力戦略プラン」(2002) の中では、確かな学力を身につけさせることのできる「教えるプロとしての教師」の育成のための研修や制度、教員定数の改善などの必要性についての言及も行われている。教育職員審議会 (1999.12.10) の第 3 次答申「養成と採用、研修との連携の円滑化」の中で 1) 「いつの時代にも求められる資質能力」、2) 「今後特に求められる資質能力」、3) 「得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性」の 3 つに分けて述べられている。1) の「いつの時代にも求められる資質能力」とは「教育者としての使命感、人間の成長、発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力である」と示されている。2) の「今後求められる資質能力」については、(1) 地球規模に立って行動するための資質能力として、地球、国家、人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的資質能力、(2) 変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力として、課題解決力に関わるもの、人間関係に関わるもの、社会の変化に適応するための知識や技能、(3) 教員の職務から求められる資質能力として、幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛情、誇り、一体感、教科指導、生徒指導等のための意識、技能及び態度等があげられている。つまり、このことは教育職員に止まらず、広く社会人として成熟していることが求められていることに結びつく。3) の「得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性」については、教師の資質能力は画一的な教員像を求めるのではなく、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、更に積極的に各人の得意分野をつくり、個性の伸長を図ることが必要であると述べられている。植屋 (2002) は「児童・生徒に育むべき「健全性」について述べる中で、児童・生徒の健全性を育むためには、児童・生徒の教育の担い手である教師や保護者がまず健全でなければならない」と述べている。この種の努力こそが「明るく

豊かな生活を営む態度を養う」という学習指導要領の中学校保健体育の目標に沿った健全な生徒の育成に結びつくと思っていてやまない。中学生にとって、保健体育の果たすべき役割は彼らの将来の人生を左右する重要な教科であることを一段と認識すべきである。

VI まとめ

小学校・中学校・高等学校の教師、児童・生徒及び彼らの保護者を対象にした学校体育及び教師に問われる資質や条件に関するアンケート調査による結果のまとめとして以下のようなことがまとめられた。

1. 本研究では児童・生徒及び保護者から得られたアンケート調査の結果は中学校の保健体育、中学校教師に関係するものに限定して述べられている。
2. 中学校保健体育の学習者である生徒は教科としての保健体育の重要度は第5番目の教科として捉えている。
3. 中学校保健体育の学習者である中学生の体育の授業への態度（喜び尺度、評価尺度、価値尺度）は小学生よりは低く、高校生よりは高い。
4. 中学校の保健体育の教師の体育の授業への態度や授業の効果に関する捉え方は、生徒の実態より有意に高い。
5. 保護者や教師が考える望ましい教師像の理想と教師自身の実態との間には大きな差異が見られた。
6. 教師自身の中学校保健体育における実技種目の指導力は必ずしも十分ではなく、種目によっては教育効果を具現することが懸念されるようなものさえあった。
7. 現行の選択制授業の実施に対する保健体育教師自身の捉え方は授業の実施や授業の教育効果といった面から否定的な部分が多かった。
8. 本研究では教師に問われる教師の資質や条件を「社会的資質」「職業的資質」「情緒的資質」「付加的資質」「身体的資質」「人間関係の資質」と命名したが、保健体育教師は「身体的資質」をはじめ、全般的に他教科の教師よりも高い結果であった。
9. 学習指導要領に掲げられた教育効果をもたらす為には、保健体育の教師は体育への価値観、指導能力、問われるべき資質や条件など、これまで以上にレベルアップする必要がある。

参考文献

- [1] 朝日新聞 (2005.5.12) 朝刊, 教師力
- [2] 朝日新聞 (2006.8.30) 朝刊, 30万円で友人に母親殺傷依頼
- [3] 朝日新聞 (2007.9.18) 朝刊, 自殺の背景にいじめか?

- [4] 朝日新聞 (2007.9.23) 朝刊, 中学校3年生斧で父親を切りつける
- [5] 石井源信 (1980), 大学体育実技における体力及び態度の効果に関する研究. 東京工業大学人文論叢 : 1-13.
- [6] 河西美代治 (2002), 中学校保健体育の行われ方の実態と体育科教育学的課題. 山梨大学研究生論文 (未刊行)
- [7] 小林篤 (1978), 体育の授業研究. 大修館書店. 東京.
- [8] 文部省 (1998), 中学校学習指導要領. 財務省印刷局. 東京
- [9] 産経新聞 (2003.7.10), 12歳の中1男子が殺害
- [10] 産経新聞 (2003.6.26) 朝刊, 「学力不足」で教諭免職
- [11] 産経新聞 (2007.9.1) 朝刊, 夏の宿題苦に中1男子自殺
- [12] 柴田一浩 (2003), 教師としてのわたしたちの「ありたい姿」「あるべき姿」. 体育科教育. 4月号:58-61
- [13] W.K.STREIT AND SIMON A. MCNEELEY(1950), “A Platform for Physical Education” Journal of Health, Physical Education, Recreation, XX1, March, p136
- [14] 高橋健夫 (2003), 体育教師はどう変わるべきか. 体育科教育4月号:12-16
- [15] 中央教育審議会 (1996) 第1次答申, 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」
- [16] 中央教育審議会 (1996) 第2次答申, 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」
- [17] 植屋清見 (1996), 小学校教師の体育の授業の捉え方及びその指導力に関する研究. 山梨大学教育学部研究報告第47号:93-104
- [18] 植屋清見 (1998), 我が国の学校体育の行われ方に関する体育科教育学的研究ー中学生の問題行動を「保健体育」は防ぎ得ないかー. 日本体育学会第49回大会号. p665
- [19] 植屋清見 (2000), 小学校教員の小学校体育及び体育の授業に関する実態ー平成11年度山梨県教育職員免許法認定講習会からー. 山梨大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター研究紀要. No.5:13-24
- [20] 渡辺健太郎 (1997), 中学校体育の行われ方に関する体育科教育学的検討. 山梨大学大学院修士論文 (未刊行)
- [21] 八尾坂修 (2001), 「指導力不足教員」読本. 教育開発研究所. 東京
- [22] 読売新聞 (2007.5.11) 朝刊, 高校1年生殺害した母親の頭部を持ち運ぶ